

「環霧島会議」は鹿児島県の湧水町、霧島市、曾於市、宮崎県の都城市、高原町、小林市、えびの市で構成しています。昨年10月14日に湧水町で開かれた同会議で、申請の実務を担当する「霧島ジオパーク推進連絡協議会」を設立。



ジオパーク Geopark

霧島

KIRISHIMA

霧島の景観から、地質遺産の保護、研究。そして持続性のある活用への道を探る

**2010年、ジオパークの認定を目指して
環霧島会議は活動しています。**



ジオパークは自然公園の一種で、ユネスコを中心に2004年に設立された審査機関「世界ジオパークネットワーク」(GGN、事務局・パリ)が認定する。

日本のジオパーク（世界ジオパークに登録申請中）

写真提供：日本ジオパーク委員会



糸魚川（新潟県）糸静線断層露頭は日本を二つに分ける大断層、糸魚川静岡構造線。



島原半島（長崎県）雲仙岳平成新山（茶色い岩山）と眉山（手前の緑色の山）を空撮。



洞爺湖有珠山（北海道）昭和火山は1943～45年に有珠山麓の畑が火山活動により山になりました。

ジオパークって何

ジオパークとは自然遺産（貴重な地形や地質とそこに見られる動植物など）を含む自然公園のことです。世界遺産は保護を目的としています。ジオパークは自然遺産を保全するだけでなく、活用することを目的としています。

そのため、自然遺産を自然科学の普及に利用することや、それを目玉としたジオツーリズム（自然を学びながら行う見学旅行）の実施などが求められます。ユネスコの支援で2004年に設立された世界ジオパークネットワークには、現在18か国57地域が登録されています。

霧島山を取り巻く鹿児島、宮崎両県の5市2町でつくる「環霧島会議」が中心となって、昨年10月の会議で霧島ジオパーク推進連絡協議会を設立しました。協議会は霧島山の2010年世界ジオパーク認定に向けて、今年中に日本ジオパーク委員会へ申請することを目指しています。

霧島山の魅力を世界へ

屋久島は、世界自然遺産に登録されて世界から注目が集まりました。霧島山が世界ジオパークに登録されると屋久島と同じように世界に情報発信され、世界中から見学者が訪れることが予想されます。

地質学が専門の鹿児島大学の井村隆介教授は「霧島山は20あまりの小さな火山体からなる珍しい火山として『日本地質百選』にも選ばれており、ジオパークの資質は十分あります。ミヤマクリシマやノカイドウ、野生のシカなどの豊かな自然も魅力です」。このほかにも天孫降臨の神話の地であることなど「自然遺産の価値を高める文化遺産も多い」と話されました。

ジオパークの登録には地域の自然、文化遺産を使った活動実績が必要です。これに関して「すでに霧島市では龍馬ハネムーンウォーク、高原町では霧島登山マラソンなどを実施しています。またトレッキング愛好者や霧島山の自然を守ろうという民間団体が活動していることは大きなアピールとなります」と話

す井村先生。でもまだ足りないものもあると言います。「韓国岳はいつできたのか？と考えたことはありませんか。そんな疑問に答えるような看板やパンフレットの整備、ガイドの養成などが重要です。でも、なによりも大切なのは地域の人たちの霧島山への思いです。まずは、ジオパークとは何かを知り、日本の公園から世界の公園を目指す霧島山の魅力をもっと学んでみてはどうでしょうか」。

市では今後も環霧島会議と一体となり、ジオパーク登録に向けて取り組みを続けます。



鹿児島大学理学部地球環境科学科
准教授 理学博士
井村隆介氏

1964年大阪府生まれ。鹿児島大学理学部卒業。学生時代から霧島山の噴火史を研究。鹿児島県土砂災害対策アドバイザー、霧島市ジオパークアドバイザー。